ビー・アイランド
B.island
2010 March vol.09
新潟県立万代島美術館ニュース第9号

2010年度の企画展のご紹介

今年度も見どころたっぷりの様々な企画展を準備しております。
(所蔵品展の紹介は4ページ目です。)

6月4日(金)－7月11日(日)
ピーターラビット®の生みの親 ビアトリクス・ポター™展

〈ピーターにカモミール・ティーをのませるミセス・ラビット(グリーティングカード)〉
1925年 国立ヴィクトリア アンド アルバート美術館蔵
©Victoria and Albert Museum, London, Linder Bequest
Reproduced by permission of Frederick Warne & Co.

108年もの間、子どもたちに読みつがれ、愛され続けているピーターラビット®の絵本シリーズを生み出したのがビアトリクス・ポター™です。彼女は子どもたちのためにかわいらしい絵本を描くだけでなく、風景画や植物画も描き、キノコの研究に打ち込み、また農業に従事し牛や羊の飼育家としても著名で、さらに自然保護活動の先駆者でもありました。本展では、絵本の絵とともに、スケッチや精密な博物画等、数々の貴重な資料なども併せて紹介します。

〈「のねずみチュウチュウおくさんのおはなし」(チュウチュウおくさんとハサミムシ)〉
1910年 国立ヴィクトリア アンド アルバート美術館蔵
The Trustees of the Linder Collection
Reproduced by permission of Frederick Warne & Co.

7月24日(土)－9月26日(日)
彫刻家・籔内佐斗司展 動き出す彫刻たち

籔内佐斗司氏【1953(昭和28)年大阪生まれ】は、大学で彫刻を学び、文化財の修復を通じて、わが国の木彫像の伝統的な技法を修得しました。確かな技術を駆使して制作された作品は、鋭い機知とおおらかなユーモアをたたえており、多くの人に愛される魅力を備えています。現在は、創作活動や文化財保護の人材育成をはじめ、平城遷都1300年を記念した「せんとくん」のキャラクターデザインでもよく知られています。本展では、広く人気のある童子たちの作品と、近年の新たな展開である《平成伎楽団》などの新作も交え、2部構成で作品をご紹介します。我々が馴染んでいる仏教的世界観・東洋的自然観に基づいた籔内氏の芸術世界、その技と心とを思う存分に楽しんでいただきたいと思っています。

〈走る童子〉1996年
新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵

〈平成伎楽団〉2009年 作者蔵

10月9日(土)－11月28日(日)
物語の絵画

カミーユ・コロー〈ビブリ〉1874-75年
新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵

絵の中の世界には、さまざまな物語が存在します。それは、日本で独自に発達した絵巻のように横へと連続して展開していくものもあれば、一枚の絵画にも奥行きをもって広がる世界があります。宗教や神話、歴史をはじめ、社会風刺や寓意、また画家とモデルをめぐる逸話など、洋の東西を問わず実に豊かな物語がそこには描かれています。展覧会では、そうした一つ一つの物語をひもときながら、絵画の持つ奥深い魅力をご紹介します。

12月11日(土)－2011年2月20日(日)
岩合光昭写真展「ねこ」

「ネコが幸せになればヒトも幸せになり、地球も幸せになる!」と語る動物写真家・岩合光昭氏[1950年東京生まれ]。本展覧会は、岩合氏が日本国外を問わず、世界各地を旅して写した「ねこ」の写真約250点を集めた展覧会です。表情豊かで愛らしい猫の姿や、猫と人の心の交流を写真を通してご紹介します。思わず心が温まる猫の世界をお楽しみください。

〈奈良県・明日香村〉2008年 ©Mitsuaki Iwago

ピーターラビット®の生みの親

ビアトリクス・ポター™展

そのみどころ

— 自然を愛しみ、冷静な観察眼と豊かな想像力に恵まれたビアトリクスの世界

〈カリフラワーと手紙を持つピーター〉制作年不詳
フレデリック・ウォーン社蔵
BEATRIX POTTER™and PETER RABBIT™©F.W & Co.,2010
Reproduced by permission of Frederick Warne & Co.

〈ヤグルマソウとヒナギク〉1881年
国立ヴィクトリア アンド アルバート美術館蔵
Victoria and Albert Museum,London,Linder Bequest
Reproduced by permission of Frederick Warne & Co.

Exhibition organised in collaboration with Frederick Warne & Co. and the Victoria and Albert Museum,London

BEATRIX POTTER™ and PETER RABBIT™ © Frederick Warne & Co., 2010 Frederick Warne & Co. is the owner of all copyrights and trademarks in the Beatrix Potter characters names and illustrations. Licensed by Copyright Asia www.panmedia.co.jp

ビアトリクスが描いた、絵本のためのイラストレーション、スケッチ

日本では24冊の「ピーターラビット™の絵本シリーズ」が発行されています。この絵本のためにビアトリクスがペンや水彩で描いた数々のイラストレーションをご紹介します。実際の絵本には採用されなかったものや、背景のためのスケッチ、グリーティングカードのための絵——。肉筆画というだけでなく、絵本制作の裏舞台までも感じさせてくれます。

美しく、精確な動物画・植物画、顕微鏡画も

ビアトリクスは、自然を観察し、それを絵に描くのが大好きな少女でした。しかも、科学的かつ冷静な眼と天性の才能をもって精密な博物画を描くことができたのです。特に、キノコの研究では抜きん出た才能を見せましたが、女性であったがために日の目を見ることがありませんでした。

ビアトリクスを知るための資料の数々

父が撮影したビアトリクスの幼い頃の写真、幼い友人に送った絵手紙、暗号で書いた日記、ビアトリクスが考案した商品、そしてそれぞれの絵本の初版本など、いくつもの資料によって、今まで知らなかったビアトリクス・ポターが見えてきます。

様々なコーナーを併設

展覧会場には、映像コーナー、ぬりえコーナー、絵本のコーナーなど、皆さんが楽しめる部屋を設けます。お楽しみに!

〈ヤマイグチ属のキノコ2種〉1897年
国立ヴィクトリア アンド アルバート美術館蔵
The Trustees of the Linder Collection
Reproduced by permission of Frederick Warne & Co.

〈こぶたのピグリン・ブランドのおはなし
(ピグリン・ブランドとアレクサンダー)〉
1910年 国立ヴィクトリア アンド アルバート美術館蔵
The Trustees of the Linder Collection
Reproduced by permission of Frederick Warne & Co.

万代島美術館

ばんびのあゆみ 2009-10

2009年度も万代島美術館の展覧会をたくさんの方が見に来てくださいました。ご覧になったみなさんからいただいた声をご紹介します。

金GOLD黄金の国ジパングと佐渡金銀山展

2009年2月21日(土)−4月19日(日)

- 金メダルを見られたり、金に触れられたりして非常によかった。(男性10代以下)
- 単に金を紹介するのでなく、金の特質からそれを使った装飾、仏像やそれに関する歴史などの展示紹介など多様でおもしろかったです。期待以上でした。(男性30代)

美の視点 記憶のかたち

2009年5月2日(土)−6月21日(日)

- 名のある有名美術家さんたちも好きですが、今回のように中堅の、これからも楽しみな現代を生きる作家さんたちの作品も大好きです。(女性30代)
- アーティスト・トークに参加できてとても良かった。作者の声や思いを直接聞くことができ、とても参考になりました。(女性30代)

没後80年記念 佐伯祐三展 — パリで夭逝した天才画家の道

2009年7月4日(土)−8月30日(日)

- 佐伯祐三の絵をこれだけ揃えられたのには感心しました。今までの展覧会の中では最高の出来栄えだったと思います。期間中にもう一度来る予定です。今まで個人蔵の見たことのない絵が見られて、素晴らしい展覧会です。(女性50代)
- 関連している画家の絵を展示していたのも非常によかった。(女性10代)

ジブリの絵職人 男鹿和雄展

2009年9月19日(土)—11月29日(日)

- ジブリ作品の場面を思い出しながら見ることができおもしろかった。とてもなつかしい気持ちになりました。(男性20代)
- 色合いや光の表現がとても素晴らしくて、見に来てよかったです。音声ガイドを利用させていただいたので、作品についてもとてもよくわかりやすく楽しめました。(女性40代)
- 家族で楽しめた内容に子供たちが美術館へ来る機会となり、とても楽しかったです。(女性40代)

松永真のポスター展 —研ぎ澄まされた感性による力強いコミュニケーションの軌跡—

2009年12月12日(土)—2010年2月14日(日)

- とても元気がでる楽しいポスターばかりでした。(女性40代)
- 大変見ごたえがありました。本で見るのとは違ってポスターは細かなグラデーションや色、かたち、インクへのこだわりなどたくさんの発見がありました。絵画もよいですが、デザインは生活に密着しているだけに読み解く楽しさがあります。(男性30代)

イベントピックアップ Event pick UP!

記憶のかたち アーティスト・トーク

稲田亜紀子さんによるトーク

展覧会では、「記憶」をキーワードに年代やジャンルも異なる新潟ゆかりの作家9人による作品が、9つの個展形式で展開されました。会期中、出品作家である稲田亜紀子さん、麻績勝広さん、小林充也さん、近藤充さん、杉原伸子さん、鶴巻貴子さん、西村満さん、星野健司さん、そして吉原悠博さんに、時に参加者からの質問も交えながら、ご自身の作品を前にして制作背景やその想いなどを語っていただきました。

佐伯祐三展 Noism 金森穣 佐伯祐三を通じ創作を語る

(中央)金森穣さん

新潟市にある日本初の劇場専属ダンスカンパニーNoismを率いる舞踊家で演出振付家の金森穣さんを招き、広く創作表現の世界に生きた画家・佐伯祐三と、自身の芸術観などについて、アナウンサーの石塚かおりさんを司会にお話いただきました。佐伯の最期の作品群にあたる《郵便配達夫》《ロシアの少女》《黄色いレストラン》を前にして発せられた金森さんの言葉は深く、とても印象に残るものでした。また県外からも参加者がみられ、終了後には活発な質問がなされるなど、充実したひとときでした。

ジブリの絵職人 男鹿和雄展 ワークショップ 男鹿和雄さんと遊ぼう!

ウミガメを折る男鹿和雄さん

「絵職人」男鹿和雄さんは、実は折り紙も大好きで、お得意は「ウミガメ」。男鹿さんは、絵本『ウミガメと少年』も描いており、愛着もたっぷりです。そこで、90センチメートル四方という巨大な紙でウミガメの折り紙を作る、というワークショップを実施しました。一人一枚。なかなか難しいのですが、教えてもらいながら、全員が何とかウミガメを折りあげました。模様をつけて、記念に写真も撮りましたよ!

学芸員コラム

例えば、ロダンの《考える人》のようなブロンズ彫刻の場合、石膏原型を元にいくつも鋳造が可能で、版画同様、複数の「本物」が存在します。もちろん、鋳造所や鋳造年の違いにより「本物」でも差が出ます。ましてや「本物」から型抜きした「孫抜き」などは論外です。このようなブロンズ彫刻の複数性を有効に使っている彫刻家に、今年展覧会を準備している籔内佐斗司さんがいます。当館でも人気の《走る童子》は、立体化したアニメーションのようなもので、6人の童子たちが並んで走っているとも、一人の走る姿を6体に分解したとも言えます。中の二人ずつは同じ型から抜かれていますが、それどころか、当館の他にも府中市の街角に置かれていたり、博多市のホテルや宮城県の大学にもいたりと、分身たちは日本全国に散っています。壁を抜けて現れ、壁の中に消えていく童子たち。美術館の空間を駆け抜けて各地に出没しているのだと想像しては、一人楽しんでいます。(桐原浩)

展覧会が終わりに近づくにつれ、どこか名残惜しい気がする。何事もなく終わってほしいという気持ちがありながら、一方でこの作品たちと別れることのさびしさを感じる。毎朝、開場前の展示室をひとり見回りながら、そんなことを強く思ったのが、佐伯祐三展でした。多くの時間と人手によってこの空間に集められた作品たちが、やがてはそれぞれの持ち主のもとへと帰っていく、もともとはひとりの画家が描いたものなのに何だか不思議な気がします。一体、作品とは誰のものなのか?現実には誰かのものでありながら、本当のところは誰のものでもないような気もします。当の作者でさえも、それは同じことなのかもしれません。自分が生み出したものでさえ、いったん手を離れてしまえば、それは一個の独立した存在としてそれぞれの運命をたどり始めるというように。夏の終わりとともに展覧会は幕を下ろし、ひとつひとつの作品を所蔵者にお返ししながら、また会いたいねと、手もとを離れていく絵画たちに再会を期す別れの言葉をささやいて。(澤田佳三)

当館はスタッフが少ないため、外部の会合等に参加する機会が増えた。最近ではデザイン専門学校の卒業・修了制作展での審査員、県内女流書作家展の披露パーティーに参加した。女流書作家のパーティーでは、一人の書作家の先生にしばらくお話相手になっていただいた。話題の狭間に、やむにやまれぬ創作への想いがちらちらと見える。「作家になるなんて身ぐるみはがれるようなものだもの、おすすめはしませんわよ。」そう言いつつも作家の道を邁進するのは、やはり表現への熱い想いからなのだろう。専門学校の展覧会では、優秀作品に選ばれた学生十数名からプレゼンテーションを受けた。いわゆるアートから商品の広報まで、作品のコンセプトは様々であったが、プレゼンからは皆それぞれの真摯な想いが伝わってきた。この中から何人がデザインで世にはばたくのか。創作活動は、身体の底から湧き上がる強い"想い"無しには続けられないよね。すごいなあ。そんな当たり前のことを、改めて認識した今日この頃である。(宮下東子)

大河ドラマ「天地人」に沸いた2009年の新潟。加藤清史郎くん演じる与六(幼き日の直江兼続)が、上杉謙信と対面した際に発した「わしはこんなとこ来とうはなかった!」というセリフを記憶されている方も多いはず。私もまた格別の思いから、与六の言葉に涙を誘われた1人なのでした。念願叶って学芸員になるべく住み慣れた東京を離れ、期待と不安を胸に縁もゆかりもない新潟へ来て早1年。慣れない学芸員の仕事、初めての雪国での生活(しかも26年ぶりの大雪!)に、「私はなぜこんなところへ来たのだろうか」と自問自答する日々。それでも、好きな美術作品に囲まれ、先輩方に助けられ、またお客様の喜ぶ顔を励みにしながら、1年間無我夢中でやってきました。与六が立派に成長し、義を尽くし故郷への愛を貫いたように、私も日々精進を重ね、皆様に楽しんでいただける美術館をつくっていきたいと思います。学芸員2年目の奮闘をどうぞ温かい目で見守ってください。(飯島沙耶子)

2010年度の所蔵品展のご紹介

新潟県立近代美術館と新潟県立万代島美術館で所蔵している6,000点を越える作品の中から、
テーマをもうけて新たな切り口で作品を紹介しています。意外な作品や隠れた名品に出会えるチャンスです。ぜひとも気軽にお立ち寄り下さい。

2010年2月27日(土)－4月11日(日)

花鳥風月 ― 現代日本画にみる自然の美

「花鳥風月」をテーマに、花や鳥、自然の風景などを描いた戦後から現代の日本画約90点を展示し、作品に息づく自然の美や生命の輝きをご紹介します。併せて、江戸末期に活躍した新潟の画人・行田魁庵(なめたかいあん)らによって描かれた《新潟年中行事絵巻》(平成20年度新収蔵品)を特別展示します。江戸時代の新潟の風俗が生き生きと展開していくこの絵巻を是非お楽しみください。

林潤一《罌粟花(春)》1998年

2010年4月17日(土)－5月23日(日)

ジャポニスムとナビ派の版画

19世紀後半の西欧には、様々な側面で日本美術の影響を受けた「ジャポニスム」の動きがありました。異国の文化に対する物珍しさだけでなく、優れた画家たちは、西欧のものの見方とは異なる新鮮な視覚を感じ取り、表現を革新しました。また19世紀末頃のパリで、ゴーギャンの影響を受けた若い画家たちが、新たな芸術の先駆者として「ナビ(ヘブライ語で「預言者」の意)派」を結成しました。画商ヴォラールが彼らのカラーリトグラフ集を出版し、本展ではドニ、ボナール、ヴュイヤールが手がけた3つのセットが一堂に展示されます。

エドゥアール・ヴュイヤール(風景と室内)より《大通り》1899年

2011年3月5日(土)－3月31日(木)

画家のまなざし スケッチ、構想、そして作品

岩田正巳《夢の姫君》1954年

美術作品は完成するまでに、いくつかの過程をとおります。日々の何気ないスケッチから、作品の構想画、下絵で細部の検討、そして本作品に至るまで、作品ができる過程をたどることで、画家たちそれぞれの感性がいっそう見えてくるかもしれません。画家たちのまなざしを、美術館で所蔵する資料を通して感じてみましょう。

所蔵作品紹介

森村泰昌《Death of Father》1991年

カラー写真に透明メディウム
266×346cm

自分自身が美術作品になってしまうというこの作家ならではの「セルフポートレイト」(自画像)作品です。作家は、男女も人種もこえてある人物や物にさえなりきってしまいますが、それらはどれもやはり森村泰昌その人なのです。ここではレンブラントの《目を潰されるサムソン》(1636年)が下敷きになっていますが、こうした古今東西の名画の中に入り込む「名画シリーズ」は、単に画中の人物と作者とが入れ替わっているだけではありません。もちろん7人の登場人物の顔はみな作者に変わっていますが、被っているのは日本の兜ですね。メイクも衣装もとことん真面目に、1人が7人に扮することで別物へと変異し、写真を用いて1枚のオリジナルな作品を作り上げているのです。まさに体を使って画中に侵入し名画になりきることを目指しながら、本来の作品を解体して新たに別の主題へと再構成してしまうようなものです。そして、仕上げに表面には透明メディウムが塗られ、筆のタッチが残されることで写真は絵画となり、さらに大層な金の額縁におさめられて名画然としています。

2010年度 展覧会スケジュール

2010	4 April	花鳥風月 ―現代日本画にみる自然の美(4月1日～4月11日)
	5 May	ジャポニスムとナビ派の版画(4月17日～5月23日)
	6 June	ピーターラビットの生みの親 ビアトリクス・ポター展(6月4日～7月11日)
	7 July	彫刻家・籔内佐斗司展 動き出す彫刻たち(7月24日～9月26日)
	8 August	
	9 September	
	10 October	物語の絵画(10月9日～11月28日)
	11 November	
	12 December	岩合光昭写真展「ねこ」(12月11日～2月20日)
2011	1 January	
	2 February	
	3 March	画家のまなざし スケッチ、構想、そして作品(3月5日～3月31日)

新潟県立近代美術館の企画展

[開館時間] 午前9時～午後5時(観覧券販売は午後4時30分まで)
[休 館 日] 月曜(ただし月曜が祝日の場合は開館し、翌日休館)。年末年始。臨時休館あり。

〒940-2083 新潟県長岡市千秋3-278-14
TEL: 0258-28-4111(代表)
http://www.lalanet.gr.jp/kinbi/

- 日本の自画像 写真が描く戦後 1945－1964 4月10日(土)－5月30日(日)
- 奈良の古寺と仏像 4月24日(土)－6月6日(日)
- モーリス・ユトリロ展 7月10日(土)－8月25日(水)
- ポンペイ展 世界遺産－古代ローマ文明の奇跡 9月11日(土)－11月23日(火・祝)
- 牧野虎雄展 2011年2月5日(土)－3月27日(日)

新潟県立万代島美術館

The Niigata **Bandaijima** Art Museum

〒950-0078
新潟市中央区万代島5-1 朱鷺メッセ内 万代島ビル5F

TEL:025-290-6655 FAX:025-249-7577
URL: http://www.lalanet.gr.jp/banbi/

開館日 午前10時～午後6時(観覧券発売は午後5時30分まで)

休館日 月曜(月曜が祝日の場合は開館し、翌日が休館)、年末年始、展示替期間

観覧料(所蔵品展) 一 般／310円(250円) 大学生・高校生／150円(120円)
中学生・小学生／無料

※( )内は20名様以上の団体料金。企画展は展覧会ごとに料金が異なります。
※障害者手帳・療育手帳をお持ちの方の観覧料は無料です。

観覧料免除 新潟県内の高等学校等が、教育活動として美術館に団体引率をする場合、所定の用紙で事前(見学の一週間前まで)に申請をすることにより、観覧料が免除されます。美術・工芸の授業、社会科見学、遠足などさまざまな形でご利用いただけます。

HOW TO ACCESS

新潟駅から
- バス……約15分
  (万代口バス乗場より「佐渡汽船」行または「新潟市観光循環バス」に乗車。「朱鷺メッセ」にて下車。)
- タクシー……約8分
- 徒歩……約25分

新潟空港から
- タクシー……約20分

自動車(有料駐車場有り)
- 新潟中央I.C料金所から……約20分
- 紫竹山I.Cから……約15分

信濃川ウォーターシャトル(水上バス)
- 新潟ふるさと村から……約50分
- 新潟市歴史博物館から……約5分